

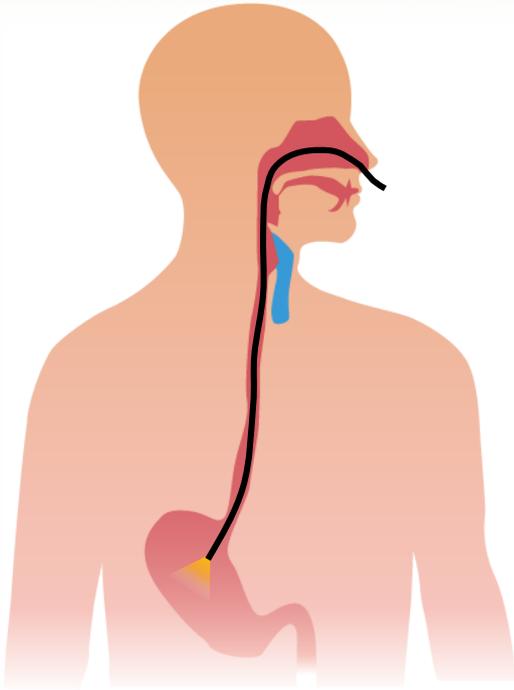
苦痛の少ない内視鏡検査 が受けられます



東取手病院では、消化器病専門医が精度の高い上部内視鏡検査（胃カメラ）を行っています。
経鼻内視鏡検査や鎮静剤を使用することにより比較的苦痛の少ない検査を行うことも可能です。

当院の内視鏡検査の特徴

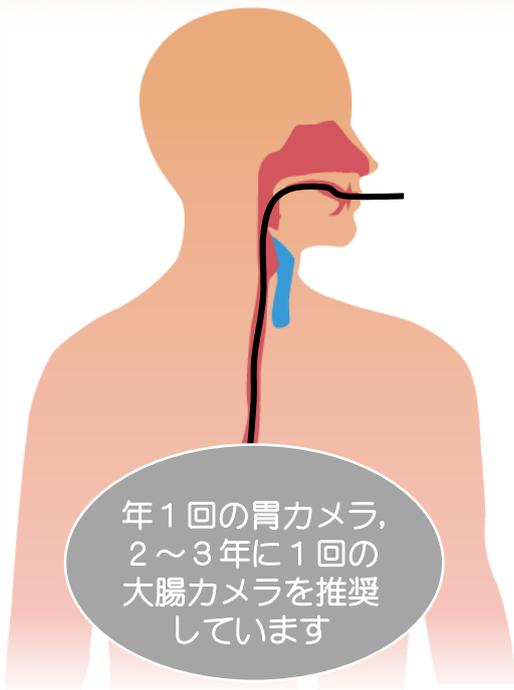
- 直径 5 mmの超細径内視鏡(経鼻対応胃内視鏡)と直径 9 mmの通常内視鏡の2種類を採用し、可能な限り苦痛の少ない検査を心掛けてます。
- 口よりも比較的苦痛の少ない鼻から挿入する経鼻内視鏡検査を行えます。
- 鎮静剤を使用することで、苦痛を感じにくい状態で検査を行えます。
(ただし、経鼻内視鏡検査では通常使用しておりません)
- 検査当日、必要に応じてピロリ菌検査を行います。
- 粘膜に異常を認めた場合は、2 mm程の細胞の断片を採取し生検を行い、良性・悪性の確認を行います。



経鼻内視鏡検査



鉛筆よりも細い極細内視鏡を鼻から挿入して検査を行います。鼻から挿入することにより舌のつけ根に触れることがなく嘔吐反射(えずき)や息苦しさをほとんど感じません。経口内視鏡検査よりも比較的苦痛の少ない内視鏡検査です。



経口内視鏡検査



口から内視鏡を挿入して検査を行います。患者様の要望があれば静脈麻酔薬を使用し、浅い睡眠状態になることで恐怖心を和らげ苦痛の少ない状態で胃カメラを行えます。大腸カメラでは、大半の方がこの“眠った状態”での検査を希望し受けています。以前に内視鏡検査で辛い思いをされた方も是非ご利用ください。

年1回の胃カメラ、
2～3年に1回の
大腸カメラを推奨
しています

鎮静剤は1～2時間効果がありますので、検査後は休んでいただいてから帰宅することになります。また、麻酔効果残存による万が一の事故防止のため、ご自身による自動車・バイク・自転車などの運転はできません。付添いの方に送迎していただくか、公共の交通機関等をご利用ください。

お問合せ

東取手病院 TEL 0297-74-3333